

なかの夢とぴあ

初当選
から2年

行政に民間の感覚を(佐野議員)に聞く

平成15年5月9日に区議として初登壇したTOKYO自民党中野区議団の佐野れいじは、同年7月の第2回定例会議を皮切りに、16年7月の第2回定例会議、同年11月の第4回定例会議とこの2年の間に3度一般質問に立ち、区と論戦を繰り広げた。

取り上げた議題は区の人件費削減、超過勤務手当の見直し、東京メトロ(丸の内線)のバリアフリー化の促進、区民税の滞納繰り越し分、防災体制等、多岐に渡る。

今号の「なかの夢とぴあ」では、これら議会で取り上げた質問に対して、その後どのように進展しているのか、佐野議員に聞いた。

工夫をすれば人件費やムダは抑えられるのです

人件費削減の問題では民間企業を例にとり、区の姿勢を厳しく追求しました。佐野 長い間、サラリーマンとして競争原理の荒波に揉まれて来た自分にとって、コスト意識、説明責任の徹底、顧客満足度の向上等、どれ一つをとっても民間企業では死活問題に繋がりがありません。行政は或る意味では私達の税金から成り立っているわけですから、もっと区民サイドに立って、民間企業の良い点を積極的に取り入れ、区政改革を図るべきだと思ったから

も民間企業では死活問題に繋がりがありません。行政は或る意味では私達の税金から成り立っているわけですから、もっと区民サイドに立って、民間企業の良い点を積極的に取り入れ、区政改革を図るべきだと思ったから

平成15年度の中野区の人件費比率34%は東京23区平均の27・8%に比べて、確かに高過ぎます。佐野 私の質問に田中区長も「中野区の人件費が高いのは23区でも1、2を争う状況にある」と認めざるを得なかった。人件費そのものは13年度の305億円から15年度は289億円と16億円減っていますが、逆に人件費比率は2ポイント増えている。歳出全体が減っているので、

たどり、今年度の予算額は約305億円、歳出全体の35%を占めています。都市整備費の63億円(同7%)に比べても、その突出



一概に比較は出来ないとしても、財源が少ないのならそれに見合った工夫も必要です。平成16年度は272億円、比率にして30%になりました。少しずつ改善されていると言っても良いのではないのでしょうか。(二面へ続く)

「元気な中野を」を目指して

新たに厚生委員会へ活躍



中野区議会議員
佐野れいじ

皆さま、お元気ですか。夏の東京はほとんど亜熱帯地方に近いとか。私もノー上着、ノーネクタイのクールビズで連日駆け回っておりますが、もともとオシャレに無縁の

ました。中野区の常任委員会は総務、区民、厚生、建設、文教の5委員会構成されていますが、新たな委員会においても区民の皆さまのお役に立てるよう全力を尽くす決意しております。区の歳出を目的別で見ると、最も多いのは保健福祉費、保健所の仕事、環境衛生、区民検診、生活保護費、生活支援費等で年々増加の一途を

ぶりがかがわれます。勿論、保健福祉費が多いことには喜ばしいことですが、限られた区の財源を考えると、他の部門

私には15種類もある区職員手当の統廃合を提起し、区は現在見直しを図っています。また、アスベスト(石

綿)による死亡が大きな問題となっております。同僚の北原議員が議会で取り上げましたが、私もこの問題について区民の健康のために行動していきたいと思っています。「われより古(いにしえ)を作(な)す」という言葉があります。これまでのやり方に弊害が生じたら新しいやり方を自ら率先して作り出すという意味ですが、「前例がないからダメ」「今までと違うから責任が持てない」では、わが中野区の発展はありません。今後とも皆さまのご支援、ご鞭撻を切に願う次第です。